

私の名前

友直 茂子

私の名前はしげこ。「茂子」と書く。

小学生の頃、母に茂子の意味を尋ねると、「頭のいい子になるようにと願って付けた」と言った。妹「洋子」は「太平洋のように大らかな人になってほしいから」と教えてくれた。「洋」の意味は理解できたが、「茂」は分からなかった。

思い浮かぶのは草木が生い茂っている情景で、頭のよさとは結び付かなかった。それに家族は妹を「ようこ」と子を付けて呼んだ。

私は「しげ」だった。「私にも子を付けて呼んで」と訴えたが、家族内で10年も使われ定着していたので諦めた。また、「げ」の濁音が名前を重くしているようで嫌だった。

変えるわけもいかず、名前は生活必需品のようなもので、無意識で使ってきた。名前に親しみや愛着は感じなかった。唯一、呼び名で気に入ったのは、大学時代のバドミントンの同級生が「しーちゃん」と呼んでくれたことだ。友達の「美恵子」「俊子」の名前がうらやましかった。我が子には「久美子」「真理子」と意味が理解しやすく響きのよい名前にした。

65歳の時、母が他界し、母の改製原戸籍を取り寄せた。母は「紀勢世」で祖母は「キセ」。曾祖母は「しげ」。

幼くして母親を亡くした母は曾祖母が大好きと言っていた。その人の名前を付けてくれたと思った。少し名前に親しみを覚えた瞬間

だった。

古希を迎えていた昨年末、電子辞書で漢字の読みを調べていた時、ふと、「茂」を調べる気になった。読み進めるうちに、緊張が走った。

意味①枝葉がさかんに生長する②さかん・豊か③すぐれている・才徳がすぐれる ④りっぱな・美しい⑤つとめる・はげむ。熟語になると「茂異（才能がすぐれ、他と異なる）」「茂行（すぐれたおこない）」「茂才（秀才）」「茂績（りっぱな功績）」…。

あ然とした。語彙（ごい）力のない私には全く予想さえできない意味と熟語。両親の思いを理解しないまま人生の大半を送ってきた自分に腹が立った。どうしてもつと早く調べなかったのかの後悔、申し訳けなさでしばらく言葉が出なかった。もう両親にわびることができない。

両親と兄（共に他界）が「しげ、しげ、」と呼んでいるのを耳にできた夫。今、「しげ」と呼ぶのは夫だけ。今日も仕事から帰宅すると「しげ、一日どうだった。変わったことあった？」と声をかけてきた。

両親も兄も夫と同じように親しみを込めて「しげ」と呼んでくれていたのだ。

もう、「しげこ」でなく「しげ」でいい。

作者 友直茂子

題名 私の名前

山陽新聞夕刊

2020.03.19 掲載